

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| 事業名称 | 障害者雇用創出・就労啓発事業での地域ネットワーク形成 | | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター | |
| | 行政 | 横浜市健康福祉局障害企画課 | |
| 事業の目的 | 障害者の雇用及び就労啓発を目的とし、共生社会の実現に寄与するショップを、平成 32 年に新市庁舎（北仲通地区）及び J R 関内駅北口高架下（関内駅周辺地区）に設置するにあたり、近接エリアに位置する両ショップを連携させながら、地域とのつながりを持って運営できるショップとしていくための仕組みづくりに取り組む。 | | |
| 事業の内容 | <p>(1) 地域ネットワークの形成 地域で活動している市民、事業者、団体等の情報を収集し、それらを 2つのショップと有機的につなげるネットワークを形成すること。</p> <p>(2) ネットワークを活かした活動の企画及び情報発信 2つのショップを活用して、障害理解の促進、共生社会の推進といったイベントやワークショップを開催し、その活動や取組を市内に発信すること。</p> | | |
| 役割及び責任分担等 | 事業項目 | 受託者の役割 | 委託者の役割 |
| | 地域ネットワークの形成 | <ol style="list-style-type: none"> 1 関連団体等の情報収集 2 企業や地域団体等への事業周知 3 ネットワーク形成 | <ol style="list-style-type: none"> 1 関連団体等の情報収集 2 既存団体等への事業周知 3 ネットワーク形成 |
| | ネットワークを活かした活動の企画及び情報発信 | <ol style="list-style-type: none"> 1 企画立案・運営 2 2ショップのコンサルティング 3 関連団体（企業や地域団体等）との調整 4 既存媒体での情報発信 | <ol style="list-style-type: none"> 1 企画検討・運営 2 関連団体（行政関係部署等）との調整 3 各種媒体での情報発信 |
| | その他 | <ol style="list-style-type: none"> 1 事業計画書の作成 2 各種打合せ日程の調整 3 各種打合せ資料作成及び記録まとめ | <ol style="list-style-type: none"> 1 全体進捗管理・調整 |
| 実施期間 | 平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日 | | |

| | |
|-----|---|
| 記入日 | 令和 2 年 6 月 19 日 |
| 記入者 | <p>[団体等]</p> <p>・団体等名： 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター</p> |

| | |
|--|---|
| | ・記入責任者 氏名： 吉川 典子 連絡先： 045-228-9117 |
| | [行政] ・部署名： 健康福祉局障害企画課 ・記入責任者 氏名： 水口 茜 連絡先： 045-671-3992 |

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

| | | | |
|-------|---------|-----------|------------|
| よくできた | まあまあできた | あまりできなかった | まったくできなかった |
| A | B | C | D |

①事業計画段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|--|-----|----|
| 1 | 自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。 | A | A |
| 2 | お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。 | B | A |
| 3 | ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。 | A | B |
| 4 | 実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。 | B | B |
| 5 | 会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。 | B | B |
| 6 | 事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。 | B | B |

②事業実施段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|---|-----|----|
| 1 | 率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。 | A | A |
| 2 | お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 3 | 相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。 | A | A |
| 4 | 事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。 | B | B |
| 5 | 必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。 | A | A |
| 6 | 事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。 | C | B |
| 7 | 事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。 | B | C |

③ふりかえり段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|---|-----|----|
| 1 | 協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。 | A | A |
| 2 | 受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。 | A | A |
| 3 | これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。 | A | A |
| 4 | 期待された事業成果を得られることができたか。 | B | A |

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・新市庁舎ふれあいショップの運営事業者が決まったことにより、現実的な事業内容を想定しながら、改めて事業目的と方向性を確認し合い、計画に反映することができた。
- ・目的達成のための事業内容、多様な方法などを相互に提案し、協議したうえで選択することができた。
- ・プラットフォームについて、外側からもわかりやすいようにパンフレットの制作に取り組んだ。また、制作にあたりコアメンバーを中心に話し合いを進める中で、お互いの現状や今後のイメージを共有することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・本事業による社会的なインパクト、事業後に目指す姿を明確にしたうえで、仮説を立ててプロセスを設計することが必要。
- ・行政とNPOそれぞれの強みを活かしての役割分担を行えたと思うが、2つのショップ運営主体やアンバサダー、周辺の協力関心を寄せる人の役割などを明確にし、協力体制の強化に努めたい。
- ・新型コロナウイルスの影響を想定した現実的な計画を立てたい。

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・新市庁舎ふれあいショップ運営事業者公募において、行政、NPO双方が共通して目指す持続可能かつ、ネットワークや企画に重点を置いた選定基準を協議し、応募団体に提示することができた。
- ・5月28日に開催した「YOKOHAMA 福祉 Food 見本市」では、新市庁舎ふれあいショップ運営事業者公募に先立ち、福祉関係者に限らずコンセプトを広く周知することができた。
- ・就労や雇用について興味関心を示してくれている応援者を「アンバサダー」として、ともに取組んでいく意識を持てるようにした。商品を買うだけでなく、情報発信や事業提携などの応援レパトリーを示し、継続的な応援の方法をイメージしてもらえるように呼び掛けた。
- ・中区内でヒアリングによるリサーチを行い、これまで掴めていなかった各現場の状況を把握することができた。同じエリアであっても施設種別等が異なると就労支援職間のつながりが乏しいという現状も知ることができた。各現場が相乗りしやすい具体的なアクションを提案し、プラットフォームが緩やかに分断された関係を変えるアプローチの必要性を共有した。
- ・10月24日に「ディーセントワーク」についての勉強会を実施し、様々な立場の人が意見交換を行い、プラットフォームの基盤づくりにつなげた。
- ・映画「だってしょうがないじゃない」を題材とした拡大コアメンバー会議を開催し、クリエイター、芸術文化分野の支援機関とつながり、協働パートナーの幅を広げることができた。本事業が障害者の雇用、就労にとどまらず、あらゆる人にとってのよりよい働き方に通じていることや行政、NPOほか協働の主体がそれぞれに障害者観、障害のある人と共に生きるあり方などを再認識し、共有する機会となった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止等に配慮し、実施時点で最適な方法を選択したうえで目標達成を図りたい。
- ・情報発信について、SNSの利用からより発信力の高いメディア（HP等）に移行する必要がある。
- ・引き続き互いに補い合いながら小まめな情報共有を進めていきたい。

事業の成果

（協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。）

- ・障害者雇用創出・就労啓発、ネットワークづくりに複数の手法を用いて取り組んだ結果、多様な団体等の共感を得て、多くの協力者とつながることができた。今後は、より継続的に協働する団体・個人を増やし、成果を高めたい。
- ・ネットワークは就労啓発プラットフォームとして事業終了後も機能する仕組みになるよう、リサーチ結果などを反映しながら基礎作りができた。
- ・新市庁舎ふれあいショップは「インクルーシブショップ」のコンセプトに沿った運営となる見込みであり、ネットワークとの具体的な連携方法を検討することができた。
- ・パンフレットやHPなど、外部向けのコンテンツを作成することで、プラットフォームを具体化することができた。このコンテンツを、これまで関わってこなかった層の人と繋がるきっかけにしたい。
- ・元年度は2ショップとの打ち合わせやイベントの企画・運営等、様々な活動を行ったことにより、ネットワークの構築をするにあたり、何が課題になっているのか知ることができた。次年度はどういった形でならネットワーク形成・持続が可能なのか検討したい。

自由記入欄